

令和4年度第4回大分市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和5年2月24日(金) 10:00~11:00

2. 場 所 本庁舎8階 大会議室

3. 出席者

○総合教育会議構成員

大分市長	佐藤 樹一郎
大分市教育委員会教育長	佐藤 光好
大分市教育委員会委員	古城 和敬
大分市教育委員会委員	上杉 美穂子
大分市教育委員会委員	古城 一
大分市教育委員会委員	廣津留 すみれ (オンライン出席)

○事務局

大分市副市長	久渡 晃	教育部長	末松 広之
企画部長	伊藤 英樹	教育部教育監	野田 秀一
子どもすこやか部長	藤田 恵子	教育部審議監兼文化財課長	坪根 伸也
企画部審議監	高橋 賢次	教育部次長	村上 雄二
企画部審議監兼情報政策課長	林 浩一	教育部次長兼教育総務課長	高田 隆秀
企画部次長	川野 洋史	教育部次長兼学校施設課長	佐藤 祐一
企画部次長兼企画課長	小野 晃正	教育部次長兼体育保健課長	清水 篤
企画部次長兼スポーツ振興課長	村田 潤	学校教育課長	江隈 英明
都市計画部次長兼公園緑地課長	定野 伸二	人権・同和教育課長	高橋 秀徳
商工労働観光部次長兼商工労政課長	正池 功	社会教育課長	足立 美乃里
文化振興課長	杉島 康之	大分市教育センター所長	小池 桂子
国際課長	渡邊 裕美	大分市美術館美術振興課長	水田 美幸
市民協働推進課長	足立 秀雄	教育総務課参事	額賀 寛
生活福祉課長	秦 尚裕	教育総務課参事補	三嶋 みどり
子育て支援課長	高橋 史晃	教育総務課主査	園田 哲也
保育・幼児教育課長	梶取 隆之		
障害福祉課参事	熊瀬 俊成		
文化振興課参事補	小野 弦市		
文化振興課主査	須浦 清隆		
企画課参事補	足立 威士		
企画課主任	松岡 健太		

4. 次 第 (1) 開 会
 (2) 議 事
 ①文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について
 ②令和4年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業報告について
 (3) 閉 会

<p>開会 企画部長</p>	<p>定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第4回大分市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>会議の進行を務めさせていただきます、企画部長の伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、廣津留委員は、オンラインによりご出席されておりますので、ご報告いたします。</p> <p>また本日、佐藤市長は他の用務があり、議事1終了後退席いたします。議事2につきましては、例年年度末の総合教育会議で教育大綱・教育ビジョン関連事業の実績報告をさせていただいていることから、それ以降の進行をお願いするため、本日は久渡副市長にもご出席いただいております。</p> <p>それでは初めに、本会議の議長であります、佐藤市長からご挨拶申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆様おはようございます。大分市長の佐藤でございます。本日は、委員の皆様におかれましては大変お忙しいところ、第4回大分市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、廣津留委員にはオンラインでご出席いただき誠にありがとうございます。前回の会議では、国の「教育未来創造会議」で議論されております「未来を担う人材育成の在り方」につきまして、同会議の構成員でいらっしゃいます廣津留委員からご講演をいただきました。廣津留委員におかれましては本当にありがとうございました。</p> <p>本日でございますが、2つの議題を予定しております。1つ目は、「文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について」でございます。子どもたちが文化・芸術に触れることは、創造性や感性を高め、多様な価値観を身につけることに繋がるとともに、郷土を愛する心や地域の一体感を醸成する点でも大変大きな役割を担っていると考えております。本日は、現在、本市で展開している様々な文化・芸術事業や学校現場での取組などについて報告をいただきましてご審議をいただきたいと思っております。</p> <p>2つ目は、「大分市教育大綱・教育ビジョン関連事業報告について」で</p>

<p>企画部長</p>	<p>ございます。昨年の6月に開催いたしました第1回総合教育会議でご説明した今年度の事業についての実績の報告を申し上げたいと考えております。委員の皆様にはぜひ忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げます。また、先ほど事務局からご説明がありましたけれども、大変恐縮でございますが、別の用務が入っております、1つ目の議題の後、退席をさせていただきます。</p> <p>また、一身上の都合によりまして、3月2日に大分市長の職を辞することとさせていただきます。本当に長年にわたりまして、この総合教育会議の場で様々なご意見を賜りまして、また大分市の教育行政についてもご指導いただきまして心から感謝申し上げます。やはり「教育」を通しての人づくりが、これからの大分の未来にとって何より大切でございますので、何卒、引き続きよろしくお願いを申し上げます。</p> <p>それでは、本日の会議を始めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、本会議の議長であります佐藤市長にお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでははじめに、議事1、「文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>文化振興課長</p>	<p>文化振興課長の杉島でございます。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>恐れ入りますが、着座にて説明させていただきます。</p> <p>それでは、A4横の資料1をご覧ください。私からは表紙に記載しております、「1. 市民の文化・芸術に関する意識調査」から「4. 市長部局の取組事例」までを説明させていただきます、「5. 教育委員会の取組事例」につきましては、教育委員会からご説明いたします。</p> <p>1ページ目をご覧ください。まず、市民の文化・芸術に関する意識調査についてご説明します。</p> <p>令和元年度に市民3千人を対象に実施した文化・芸術に関する意識調査において、回答者の9割以上の方から「子どもの頃から文化・芸術に触れる機会の必要性」が必要と思うとの回答をいただいております、市民の子どもに対する文化・芸術の関心の高さがうかがえます。</p> <p>また、資料の右側には、大分市の文化・芸術施策を満足度・重要度で分類した関連表を記載しておりますが、赤枠で囲まれた市民の満足度が低く、重要度が高いとされる部分を「早期改善項目」としております。</p> <p>資料左側に記載のとおり、早期改善項目の上位には「子どもが文化・芸</p>

術に親しむ機会の充実」、「学校教育における文化・芸術に関する学習・体験機会の充実」、「次世代の文化・芸術活動を担う人材育成」など子どもに関する取組が占めております。このように市民の子どもに対する文化・芸術施策の関心の高さからも、市民が子どもたちの成長に文化・芸術が大変重要な役割を担うと考えていることが分かります。

子どもの頃に文化・芸術に触れることは、創造性や感性を高め、多様な価値観を身につけることにつながるほか、心豊かな市民生活の実現や郷土を愛する心、地域の一体感の醸成につながることを考えられます。

2ページをご覧ください。本市におきましては、先程の意識調査の結果を踏まえる中、文化・芸術振興の指針となる計画として、令和3年3月に「おおいた文化・芸術推進プラン2024」を策定し、3つの基本目標「はぐくむ」「ささえる」「つなぐ」に沿った各種取組を推進しております。

特に、子どもたちに関しては、資料右側にありますように、「はぐくむ」の基本施策に「次世代を担う子どもたちの育成」を掲げており、具体的には「子どもたちが文化・芸術に触れる機会の提供」、「子どもたちの文化・芸術活動の発表の機会の提供」、そして「子どもたちが歴史・伝統文化を学ぶ機会の提供」について、庁内各課において積極的に取組を実施しております。

3ページをご覧ください。それでは、市長部局の主な取組事例について6事業ご紹介します。市長部局では、身近な場所で気軽に文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、子どもを対象とした公演やワークショップ、展覧会等の開催、市長表彰等に取り組んでおります。

1つ目の「アートレジオン推進事業」は、周辺地域に市内外からアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動等を通して文化・芸術の振興と地域の活性化を図るものでありますが、旧小学校の2校をアトリエとして活用し、これを利用するアーティストらが中心となって子ども向けのワークショップを開催し、親子連れで参加いただくほか、アトリエを同時公開し、アーティストとの交流を図っております。

さらに、本年度は大南地区で地域周遊型展覧会を開催しましたが、展示アーティストの一人が吉野梅園の由来をモチーフにした作品を地元小学生と共同制作するなど、地域に根差した取組も行いました。

2つ目の「別府アルゲリッチ音楽祭」ですが、世界最高峰の音楽家による質の高い演奏を本市において鑑賞できる機会を創出しておりますが、昨年5月には「いいちこ総合文化センター」の「室内楽コンサート」の開催と併せて本市所有の「平和市民公園能楽堂」において大人と子どもの心の育みを目的とした「ピノキオコンサート」を開催しております。本公演では、アルゲリッチ氏が能楽堂で初めて演奏されることを記念して、特別に市内中学生とその保護者20組を無料招待し、未来を担う子どもたちに一

<p>文化財課長</p>	<p>流の音楽に触れる機会を提供したところであります。</p> <p>4ページ目をご覧ください。3つ目の「おおいた夢色音楽プロジェクト」は、本市が日本における「西洋音楽発祥の地」であることにちなみ、「おおいた夢色音楽祭」をはじめ各種コンサートを実施しております。特に、のつはる天空広場で開催しております「のつはる音の森フェスティバル」では、市内中学校や高校の吹奏楽部を招待し、大自然に囲まれた屋外ステージで発表の機会を提供したほか、同アルゲリッチ音楽祭ゆかりの若手演奏家を招聘し、質の高い演奏を披露していただきました。</p> <p>4つ目の「アートを活かしたまちづくり事業」は、文化・芸術の持つ創造性を産業の振興や地域の活性化に活かすため、中心市街地を舞台にアートフェスティバル等を行っております。本年度は、空きビルを情報発信拠点として活用しアート作品を展示したほか、まち歩きツアーやワークショップを行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の方たちがまちの魅力を体感し、楽しみながら文化芸術に触れられるアートフェスティバル2022「回遊劇場アフター」を開催しました。</p> <p>5つ目の「クリエイティブ産業育成事業」は、企業やクリエイター、学生など多様な主体に学びの場と実践の場を提供しております。本年度、企業のロゴや商品のパッケージをテーマにしたデザインコンテストでは、学生を含む多くのクリエイターから応募がありました。なお、資料右側には学生賞を受賞した大分トリニータのユニフォームデザインの一部を掲載しております。</p> <p>最後に、6つ目の「アーティストバンク推進事業」は、本年度からの新規事業であり、文化・芸術団体や個人、発表場所として提供可能な民間施設等の情報をデータベース化し、双方のマッチングイベントを促進することで、子どもを含む多くの市民がより身近な場所で文化・芸術に触れられる機会を創出するものです。本年度は制度の設立に向けた現状分析として、民間施設の利用実態や課題等を調査したところであります。</p> <p>以上、市長部局としましては、今後もあらゆる場面を通じて、子どもたちが多彩な文化・芸術に触れ、体験する機会を創出することで、「次世代を担う子どもたちの育成」につなげてまいりたいと考えております。</p> <p>文化財課長の坪根でございます。どうぞよろしくお願いたします。私からは、「5.教育委員会の取組事例」についてご説明いたします。恐れ入りますが、着座にて説明させていただきます。</p> <p>5ページをご覧ください。本市教育委員会では、大分市教育ビジョン2017第Ⅱ期基本計画に掲げる基本方針に基づき各種取組を進めているところです。</p> <p>1つ目の「FUNAI ジュニア検定」についてご説明いたします。本市では</p>
--------------	--

子どもたちの郷土への愛着と誇りを醸成するため、市内小学校6年生を対象に大友宗麟副読本を活用した郷土の歴史学習に取り組んでおります。こうした郷土学習の成果を生かすため、歴史検定を平成29年度から実施しています。100点中90点以上を合格とし、合格者のうち希望する者を「FUNAI ジュニアガイド」として研修を行い、養成を図っています。

令和4年度は155名が受検し、そのうち13名が合格いたしました。本検定は、大分の未来を担う若い世代の健全育成につながるものと考えており、今後も継続してまいりたいと考えております。

2つ目の「歴史資料館体験活動」についてご説明いたします。子どもたちの豊かな心を育むために、身近な郷土の歴史や文化や先人たちの知恵を学ぶことを目的として、学校の授業で学んだことをより深く体験する場として歴史資料館を活用していただいております。令和4年度も小学校3年生を中心に市内の多くの小学校にご利用いただきました。

今後も教育課程に沿った各種体験プログラムを準備することで、学校が利用しやすい環境を整え、子どもたちが楽しく学べる機会の提供に引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

3つ目の「展覧会事業」では、令和4年度は「福田平八郎と大分の日本画家たち」を開催し、平八郎をはじめとする地元作家たちの優れた作品を紹介しました。また、「福田平八郎賞」図画展、「朝倉文夫賞」彫塑展では、市内小・中、特別支援学校児童・生徒の作品を展示し、発表の場を提供しております。

6ページをご覧ください。4つ目の「教育普及事業」では、市内小・中学校への出前教室や夏の子ども講座、体験プログラム等を開催しました。また、アートプラザでは、磯崎新の業績を紹介する展覧会や講座の開催、ワークショップをはじめとする様々な普及事業に取り組んでおります。

5つ目の「学校での取組事例」でございますが、大分市立鶴崎小学校では、「鶴崎の地に伝わる伝統芸能『鶴崎踊』を継承したい」という児童の声から約15年前に「こども踊りクラブ(鶴崎踊)」を発足しました。鶴崎おどり保存会会員の指導のもと、毎週月曜日の放課後に体育館で練習を行っています。今年度は、37名の児童が参加しています。コロナ禍前は、毎年8月に開催されている本場鶴崎踊大会等で披露してきました。なお、今年度は、令和4年11月13日に行われた「鶴崎元気祭」で踊りを披露しております。また、鶴崎地区が熊本藩の所領であったことから、熊本市との交流が続けられています。熊本市のNPO法人「自然を愛する会」が「参勤交代九州横断徒歩の旅」事業で来県した際、出発式に6年児童が参加しております。また、修学旅行で熊本城を訪れた際、地元ボランティアによるガイドのもと、城内の見学を行っております。

最後に6つ目、大分市立植田南中学校では、茶道裏千家流正教授である

	<p>鳥谷晴美氏を講師に迎え、毎週金曜日14名の生徒が体育館和室において茶道部活動を行っています。コロナ禍前は、入学式や卒業式、文化祭等で友人や保護者、地域の方々にお茶をふるまっておりました。現在は、お茶のたて方やおひがしの食べ方、歩き方などの礼儀作法を学んだり、担任の先生にお点前を披露したりするなどの活動を行っています。生徒たちは、「袱紗捌きが上達して嬉しい」など、作法を覚えだんだんとできるようになる喜びを感じております。また、お箸の扱い方や茶わんの吹き方など、日常生活にも茶道部の活動が活かされています。</p> <p>議事1「文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について」、事務局からの説明は以上でございます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見・ご質問等はございますか。</p>
古城（一）委員	<p>ご説明ありがとうございました。教育委員の古城一です。STEAM教育の中で言うArtの分野で、幅広い取組を行っていただいております大変お疲れさまでございます。3ページの「アートレジオン推進事業」のところがございます。市内外からアーティストの方を呼び込まれて、ワークショップを開催しているとご報告いただきました。大変すばらしい事業だと思いますが、どれくらいの生徒さんが参加されたのか、お聞かせ願えれば幸いです。</p>
文化振興課長	<p>ただいまのご質問でございますが、今年度のワークショップについては、3回を予定しており、現在2回まで開催しております。子どもさんだけの人数はこの場でお答えができませんが、保護者を含めた人数ですと、佐賀関の旧大志生木小学校で行ったワークショップでは220名、大南の判田校区公民館で行われたワークショップでは60名ほどご参加いただいております。多くは保護者にも参加してもらっていますので、約半分が子どもさんの参加人数だと思われます。</p>
古城（一）委員	<p>ありがとうございました。少ない人数なのかなと思っていましたが多数の参加ですね。大変意義のある事業だと思います。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。他にご意見・ご質問等ある方いらっしゃいますか。</p>
古城（和）委員	<p>同じく教育委員の古城です。市民の文化・芸術に関する意識調査についてですが、これは22項目の重要な施策があつて、それについて市民の方がどういう位置付けをするかという満足度と重要度に関しての評定</p>

<p>文化振興課主査</p>	<p>結果を図に示したものだと思いますが、例えばそれ以前にこういった政策が実施されて、それを念頭に置きながら回答するといったこともあるかと思いますが、具体的な施策とここに書かれた22項目の施策のマッチングと言いますか、市民の皆さんがこれまでの施策をどの程度念頭に置きながら回答しているのかというところを質問したいと思います。</p> <p>文化振興課の須浦でございます。令和元年度にアンケート調査を実施した際は、各施策の項目毎にどんな事業を実施しているかというところを、市民の方にお見せしてまではアンケートを行っておらず、この内容を見ていただいて、それぞれ満足度や重要度を回答していただいている状況でございます。</p>
<p>古城（和）委員</p>	<p>分かりました。これから先それぞれの事業をやる時に、こういった施策があって、それがどの文脈の中で実施されているということが市民の方に分かりやすくなると、また感覚が変わってくると思いました。そういったところも念頭に置いてやっていただければと思います。以上です。</p>
<p>上杉委員</p>	<p>上杉です。ご説明ありがとうございました。5、6ページのところで、やはり学校教育の場で子どもたちが経験や体験を通じてこういったことに触れる機会がとても重要だと思います。中学校の部活等では外部の指導者さんが入ってくださっていますが、やはり運動部の方が多いのかなという印象があります。文化部の方でも茶道等はもう何十年と携わってくださっている方もいらっしゃいますが、地域との交流という観点で言えば、やはり地域の方の人材確保も重要だと思います。また、コロナ禍もあって学校の中でも合唱や合奏ができなかったり、商業施設等での吹奏楽の発表も縮小されたり、あまりお客様も入れないような形を取ったり文化部の発表の場が少なかった中で、今後これからもっと発表の場等があると子どもたちにとっても目指す目標があって良いのかなと思います。また、運動部は表向きに発信が多い印象がありますが、中学校の文化部がこのような活動を行っているということをあまり小学生が知らないということも現場としてあるようなので、ぜひ文化・芸術の分野でも小学生に向けて発信するなど、小中で交流してお子さんが知る場をもっと作っていただけたらと思います。以上です。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>学校教育課の江限でございます。貴重なご意見ありがとうございました。私どもといたしましても学校の方で生き生きサポート事業というのを展開しておりまして、地域で講師になっていただける方を人材として登録させていただいて、学校の方でご活躍いただいているところでございま</p>

<p>廣津留委員</p>	<p>す。</p> <p>小学生が文化部の活動を知ることにつきましては、私どもの重要課題として小中一貫教育を進めております。その中で部活動見学というものもございますので、そのような中で小学校に広げていきたいと思っております。以上でございます。</p> <p>ご説明ありがとうございます。芸術というのは数字としてなかなか成果が現れないという特徴もあって活動が進みづらいですが、このようにたくさんのお取組事例を聞かせていただいて本当に素晴らしいなと思います。</p> <p>現在、アルゼンチンのブエノスアイレスからリモートで参加させていただいています。アルゲリッチの故郷はブエノスアイレスで、自分が大分で生活していた頃もアルゲリッチが毎年大分に来ていて普通に聞ける人だと思いましたが、1回外に出てみるとそれがどれだけすごいことかということを実感しています。そのように日常の中に音楽祭が溶け込んでいるということは大分の良いところでもありますし、能楽堂で中学生を無料招待していることも素晴らしい取組だと思います。</p> <p>この資料にある活動についてではないですが、1ページの早期改善項目の中に「学校教育における文化・芸術に関する学習・体験機会の充実」というものがありますが、一意見としてですが、教育の場でのアーティストの表現というものが結構ボランティアになりがちで、「教育のためなのでお願いします」という機会も結構多いという話をアーティストの方からよく聞きますが、やはりアーティストを育てるにはしっかりと価値を認めて、それに対して対価を支払うということもアーティストを育てるモチベーションになると思います。特に具体的な活動に関してではないですが、仕事としてのアーティストの存在をしっかりと認めて、それを教育の現場に入れ込むことで、子どもたちにとっても芸術というものがどういう仕事で、どのようにしたら芸術の仕事ができるかということの理解が進むと思うので、アーティストの立場からの一意見として述べさせていただきたいと思いました。本当に芸術に関しての活動は全て素晴らしくて続けていただきたいと思います。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。私も意見を言わせていただきます。先ほど古城委員におっしゃっていただいたように、1ページに表がありますが、この表とそれぞれの事業の関係や、他都市の特色ある取組を比べた時に、アルゲリッチは他都市にない誇れる取組だと思いますが、他にはどういうものがあるのかということを見ていくと、どういうところが足りてないのかがもう少し明らかになってくるのではないかと思いますので、文化振興課と教育委員会の両方に言えることですが、そのような視点も必要になっ</p>

	<p>てくと思います。芸術や文化による子どもたちの育成を掲げるという意味では、非常に色々なことに取り組んでいただいているのでそれはそれで良いと思いますが、さらにどういうところに力を入れていくのかという議論もしていく必要があるのかなと思います。</p> <p>それから資料の中身について言うと、非常に内容が盛りだくさんですが、例えば去年は「東アジア文化都市2022 大分県」があって、大分市はどのように関わったのか等、資料には掲載されていないですが文化活動としては他にも重要な取組がたくさんあると思います。</p> <p>それからもう1つは、先ほどの1ページの表との関係で言うと、この中には他にもスポーツ文化や食文化等色々書かれています。ちょっと広がり過ぎるので、今回のテーマはこういう範囲の議論ではありますけど、この表の中にはそういうものもありまして、他にも例えば映画文化や文学、漫画文化でも県内には著名な方がいらっしゃいます。広げてしまって申し訳ないですが、この表も含めてどういうところにさらに力を入れていくかという議論をしていくと良いかと思ひますし、そうすると文化振興課や教育委員会だけではない部分もかなりあると思います。もっと色々あるかもしれませんので、幅広く概観しながらそれぞれの取組を位置付けていってもらいとさらに充実されるのではないかと思います。</p> <p>文化・芸術の素晴らしさや大切さというのは人の心を豊かにし、そしてその人の人生をより豊かなものにするということだと思いますが、先ほど廣津留委員もおっしゃっていたとおり、どうしても人の目が向くのは学力テスト等の点数に表れる部分で、それ以外のところはどうしても注目が薄くなりがちです。その結果もあるのかもしれませんが1ページの表の中では「子どもが文化・芸術に親しむ機会の充実」や「学校教育における文化・芸術に関する学習・体験機会の充実」等が足りていないという指摘をアンケートで受けています。これについては、もっと充実させていかなければいけないと感じているところです。学校だけでできること、それから市長部局と協力してやっていかなければならないこと、様々ありますのでまだまだ連携を深めていきたいと思ひます。</p> <p>超一流の技に触れ、そのことに感動し、そして今度は自分がそれを実際に体験してみるという活動を通じながら、豊かな人生の創造者になり得ると感じていますのでこれからの課題としていきたいと思ひています。</p>
教育長	
廣津留委員	もう1点よろしいでしょうか。
市長	はい、お願いします。

<p>廣津留委員</p>	<p>先ほどの市長のお話を聞いていて思ったことがあります。大分市では資料に載っているものだけではなくてたくさんの文化活動が行われていると思います。例えば、コロナ禍に府内の街の中では外にステージを作って楽器の演奏をされている方や、歌の演奏をされている方もたくさんいらっしゃいました。外で演奏していると、自然と通行している市民の皆さんにも楽しんでいただける機会になっていて、どうしてもイベントとして行くと自ら行こうと思わないとなかなか芸術に触れられないと思いますが、その時の外での演奏はすごく皆さんが触れられる環境にあって素晴らしいと思いました。もちろん今いる南米と大分とでは雰囲気は全く違いますが、どうして文化や芸術が街に根付いているのかと考えた時に、やはりどこにでも音楽があって、それがコンサートホールの音楽だけではなくて、誰でも参加できるような形態の芸術が街に身に付いているというのはすごく感じています。アーティストバンク推進事業というのが資料に掲載されていますが、発表場所として提供可能な民間施設というのも、「施設」だけではなくて例えば野外のステージや、今まではステージとして使っていなかったところでも、人通りが多く人目に触れられる場所もきっとあるのではないかと思います。そのようにすると芸術とまちづくりとが一緒になって、環境として芸術を育てていくということができるのではないかと思います。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。ぜひそのようなまちづくりを目指していただきたいと思います。ザルツブルグ音楽祭なども、コンサートホールの中だけではなくて各所で行っているようですし「おおいた夢色音楽祭」がそういう方向性を目指していると思いますし、「回遊劇場」もそういう目的があったと思います。そのようなことも含めて音楽やアートで溢れるまちを目指していただけるとありがたいと思います。</p> <p>それでは議事1を終了いたしまして、議事2に入りたいと思いますけれども、先ほど冒頭申しましたとおりどうしても別の用件がございまして私はここで失礼させていただきたいと思います。委員の皆様におかれましては、長い間誠にありがとうございました。ぜひ引き続きよろしく願い申し上げます。では一旦事務局にお返しをしたいと思います。</p>
<p>企画部長</p>	<p>佐藤市長ありがとうございました。それでは続いての議事に入らせていただきます。ここからは、第1回大分市総合教育会議で概要をご説明いたしました「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業の実績を委員の皆様にご報告いたします。</p> <p>それでは、ここからは久渡副市長よろしく願いいたします。</p>

久渡副市長	<p>副市長の久渡でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、議事2に入ります。令和4年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業報告について、事務局から説明をお願いします。</p>
企画課長	<p>企画課長の小野でございます。</p> <p>令和4年度「大分市教育大綱・大分市教育ビジョン」の関連事業報告についてご説明申し上げます。右上に資料2と書かれた資料をご覧ください。</p> <p>昨年6月に開催いたしました、第1回大分市総合教育会議で、今年度の事業概要についてご説明しております。本日は、それらの取組の実績報告として、新規事業、拡充事業、重点事業を中心にご説明させていただきます。</p> <p>オレンジ色で示しております事業が新規事業、水色で示しております事業が拡充事業、緑色で示しております事業が継続の重点事業となっております。また、1ページの8番のように番号の下に（市）と記載した事業は市長部局の事業でございます。</p> <p>これらの事業につきましては、市長部局と教育委員会が連携しながら取組を進めておりますが、説明は、はじめに、教育委員会で所管する事業について説明したのち、市長部局で所管する事業を説明します。</p> <p>それでは、教育委員会の事業につきまして、教育総務課長から説明いたします。</p>
教育総務課長	<p>教育総務課長の高田でございます。</p> <p>教育委員会が所管する事業についてご説明いたします。1ページをお開きください。</p> <p>6の新規事業の「民間プール活用委託事業」につきましては、金池小学校をモデル校として、ルネサンスおおいのプールを活用した水泳授業を令和4年5月から9月までの間実施し、児童・教員へのアンケートや事業者への聞き取りを行い、学校での水泳授業と民間プールを活用した水泳授業に係る経費や教育的効果等を比較するなど、今後の民間プールを活用した水泳授業の実施方法等を検証したところでございます。</p> <p>2ページをお開きください。14の新規事業の「特別支援教育アドバイザー派遣事業」につきましては、特別支援教育アドバイザー3名を拠点校及び対象校に派遣し、児童生徒に対する指導方法をはじめ、教育環境の改善や保護者支援などに係る指導・助言を行ったところでございます。</p> <p>3ページをお開きください。19の拡充事業の「不登校児童生徒支援事業（スクールライフサポーター事業）」につきましては、生徒指導や教育相談に関する専門的な知識と技能を備えたスクールライフサポーター</p>

を9名配置し、児童生徒が安心して通える居場所を作り、教室復帰や社会的自立に向けた支援を行ったところでございます。なお、支援教室に登校する児童生徒のうち、約半数が教室で授業を受けることができるようになっております。

4ページをお開きください。26の新規事業の「学校施設照明LED化整備事業」につきましては、一部の小中学校の照明器具等を調査した上で、学校運営に支障をきたさないための短期間施工や事業方式等について民間事業者と協議したところでございます。

次に、31の拡充事業の「スクールサポートスタッフ配置事業」につきましては、分校を除くすべての市立小中・義務教育学校へ配置し、学校ごとのニーズに対応しながら、教職員の業務軽減に努めたところでございます。

5ページをお開きください。39の新規事業の「のつはる西部の楽校管理運営事業」につきましては、平成30年3月に閉校となった旧野津原西部小学校をのつはる西部の楽校として7月1日に供用開始したところであり、12月末までの利用者数は宿泊利用16団体346名、日帰り利用33回375名となっております。

6ページをお開きください。47の新規事業の「新たな知の拠点整備事業」につきましては、整備の具体的な方向性などについて、パブリックコメントを実施した上で、「整備概要」を策定したところでございます。また、躯体健全性・劣化度調査及び磯崎新氏より寄贈を受けました図書資料の検索に必要なデータ整備については取組を進めているところでございます。

7ページをお開きください。54の新規事業の「FUNAI文化遺産整備基金積立金」につきましては、5月から寄附金の受付を開始したところでございます。寄附金の周知に当たっては、大分市ホームページや市報による周知をはじめ、東京都・神奈川県の大分県人会・市人会や全国の文化施設等にチラシを送付するとともに、「大友氏遺跡フェスタ・宗麟公まつり」においては専用ブースを設置し、来場者に周知を図ったところでございます。

次に、55の新規事業の「小牧山古墳群基盤整備事業」につきましては、展望台の撤去及び展望地南側に転落防止用の安全柵を2.5m設置したところでございます。また、落葉時期にあたる12月に史跡指定区域及び展望地周辺の樹木調査を行い、2月に樹木間伐を実施したところでございます。

次に、56の新規事業の「DXによる地域文化資源の継承及び活用推進事業」につきましては、デジタルアーカイブの令和5年4月公開に向けて、システム構築及び公開データのデジタル化を実施しているところでござ

<p>企画課長</p>	<p>います。</p> <p>教育委員会の所管する事業についての説明は以上でございます。</p> <p>改めまして企画課長の小野でございます。続きまして、市長部局の関連事業についてご説明いたします。</p> <p>2ページにお戻りください。16の新規事業の「子育て世帯訪問支援事業」につきましては、家事・育児に対して不安や負担を抱えている子育て世帯、ヤングケアラーおよび妊産婦等に対して、家事・育児を支援するヘルパーを派遣する事業でございます。10月の事業開始以降、12月末時点で相談26件、申請16件、利用決定13件となっており、うち、ヤングケアラー事案は、申請4件、利用決定3件でございます。今後もホームページ等の掲載及び関係機関への周知啓発を行うことで、市民への周知を行ってまいります。</p> <p>3ページをお開きください。22の拡充事業「放課後等デイサービス(障害児通所支援事業)」につきましては、市内の放課後等デイサービス事業所において、利用者の障がい特性や成長に応じた支援計画の作成、スタッフへの助言・指導等を行う「児童発達支援責任管理者」を対象とした研修を実施したところです。また、事業の実施状況としましては、令和4年11月末の利用者数は1,481人、事業所数は市内99カ所のほか、本市の障がい児が利用した市外事業所を加えた114カ所となっております。</p> <p>次に、25の拡充事業「医療的ケア児教育・保育事業」につきましては、これまでに令和元年度が3名、令和3年度に2名が市立幼稚園にて事業の利用をしております。令和4年度は、市立幼稚園1園で2名、市立保育所2園で2名、私立保育所1園で1名の計5名が事業を利用しております。</p> <p>6ページをお開きください。45の重点事業の「児童育成クラブ事業」につきましては、金池小学校の建替えに伴い、児童育成クラブのクラブ室を新たに校舎内に設置し、定員も拡充しました。また、旧幼稚園を児童育成クラブで利用したり、民間放課後児童クラブにおいても定員の拡充を図り、令和3年度末の定員6,993名から令和4年度末は7,182名となり、全体で189名分の定員を拡充しました。</p> <p>8ページをお開きください。59の重点事業の「スポーツコミッション推進事業」につきましては、令和5年1月までの間に、「ハンドボール女子日本代表」、バレーボールの「堺ブレイザーズ」、「フェンシング・サーブル日本代表」、ラグビーの「コベルコ神戸スティーラーズ」、そして野球の「ソフトバンクホークスチーム甲斐」と、5団体を誘致したところがございます。また、2月には「明治大学競走部」、3月には「青山学院大学陸上競技部」が合宿を予定しております。合宿期間中には、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、市民を対象とした交流事業を行ってまい</p>
-------------	---

<p>久渡副市長</p>	<p>ります。</p> <p>議事2、令和4年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業報告の説明につきましては、以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。ただいまの説明につきまして何かご意見、ご質問等ございましたらよろしく願いいたします。</p>
<p>古城（一）委員</p>	<p>ご説明ありがとうございました。2ページの16番、先ほど説明をいただきました子育て世帯訪問支援事業についてでございます。ヤングケアラーにつきまして私たちもこの会議で認識をさせていただいたところでございますが、実際申請件数を見ますと、申請件数4件、利用決定件数3件となっております。印象としては、支援を必要としている方々になかなか届いていないのかなと思います。その点の見解をお聞かせいただければ幸いです。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>子育て支援課の高橋と申します。この訪問支援事業は、2月7日現在で33件ほどの問い合わせがあります。その内ヤングケアラーの世帯数は7件程度に伸びております。この数字の伸びがどうかというご質問になるかと思われませんが、この事業自体が有料のため、こちらからお話をして、利用者にとって有利な無料の支援に繋げたり、他にもお弁当を届ける等のアウトリーチ型の支援に繋げたりすることも同時に行っております。また、保護者の中には今後時期が来ればこの事業を利用したいとの問い合わせもあり、そういったところで今調整を行っている状況でして、2月に導入会議等を開いてさらに今件数を伸ばすような努力をしております。以上でございます。</p>
<p>古城（一）委員</p>	<p>ご説明ありがとうございました。もう一步踏み込んだご支援をしていただければなと感じました。ありがとうございます。</p>
<p>古城（和）委員</p>	<p>今の質問に関連して、問い合わせ件数が33件と伺いました。資料にも相談件数26件と記載されていますが、これは誰が相談するのでしょうか。その内訳をお聞かせいただきたいと思います。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>子育て支援課の高橋でございます。訪問支援事業だけではないですが、例えば保健所であるとか、子どもルームであるとか、そういったところに保護者の方がみえられて、今の生活の困りであるとか悩みを打ち明けられた時に、市の職員等からこういった事業についてご説明をして支援に繋がっているところでございます。</p>

上杉委員	<p>同じ点で申し訳ないですが、どなたが相談するのかというところで、お子さんの声というのがなかなか届かないこともあるのかなと思います。そもそも自分が困っているのかどうか、助けを求めて良いのかどうか、どこに相談すれば良いのか等、学校に通われているお子さんであれば携わる大人が気付ける点もあるのかもしれないですが、それでもやはりこういうことは隠しがちと言いますか、あまり表には出てこないこともあるのではないかと思います。今までもされているとは思いますが、アクセスできない子どもに向けて、今後もより寄り添った形の支援やサポートについて考えていただきたいと思いました。やはりこの件数と相談者というのが実態に合っているのかというのは思うところではあります。</p>
子育て支援課長	<p>子育て支援課の高橋でございます。今お話したヘルパー派遣事業とは別に、もう一つ別の見守り事業がございまして、大分市の要保護児童対策地域協議会において掘んでいる虐待事案やDV事案等に対しては、行政から積極的に関わりを持つようにしております。その際には学校現場のスクールソーシャルワーカーさん等から情報を集めて、市の方からアウトリーチをかけていくといった事業を同時に行っているというところでございます。</p>
久渡副市長	<p>ありがとうございます。その他に何かございますか。</p>
廣津留委員	<p>ご説明ありがとうございます。質問ではないですが13番、14番のところで、私たちも学校訪問をさせていただいて、特別支援学級の需要の大きさを目の当たりにしてかなり衝撃を受けたと同時に毎年事情が変わっているというのをすごく感じました。診断数ですとか学級数については、現状に見合った数字だと思いますが、特別支援学級に当てはまる児童生徒の数はこれからおそらく増えていく一方なのではないかということを経験現場の声から肌感覚として感じましたのでぜひ数字をウォッチしていただいて、継続拡充などをしていただきたいなと思います。以上です。</p>
大分市教育センター所長	<p>大分市教育センターの小池でございます。特別支援教育アドバイザーの事業について併せて説明をさせていただきます。現在、特別支援教育アドバイザー3名を拠点校に配置し対象校に派遣しております。指導対象者延べ件数は、4月から12月末までの間に計9,468件の対応をしております。これは1人1ヶ月当たり直しますと350件でございます。内容につきましては、授業観察等により、「支援が必要な子どもにどのような支援をしていけば教育効果が上がるか」といった個々の子どもへの具体的な支援について、特別支援教育コーディネーター等に伝えております。学</p>

	<p>校の中で、特別支援学級や通常の学級における子どもたちへの支援の在り方を見直していくことや、校内研修の一端を担えるように、指導や支援をしているところであります。事業の拡充もありますが、まずは特別支援教育コーディネーターを育てていく、さらに、学校で特別支援教育について教職員が認識を深めていくことに取り組んでおります。今後も方法を見直しながら進めてまいりたいと思っております。</p>
久渡副市長	<p>ありがとうございます。その他に何かございますか。</p>
古城（和）委員	<p>19番ですけれども、事業の実績のところでは計9校に配置したということで、約半数が学級に復帰したことをご報告いただきました。この半数というのは、配置した学校で学級に入れなかった子どもたちが入れるようになった数字なのか、それとも不登校全体の子どもたちの中でその半数が学級復帰したのかというところをお聞かせ願いたいと思います。それともう1つは、この事業は非常に少しずつではありますが、やればやるだけ効果が見えてくるのかなと思っています。だんだんと子どもの数は減る状況がありますけれども、不登校の児童生徒が増えていくということからすると、この事業は来年度も拡充ということを知っておりますけれども、さらにまた市長部局でもご支援をお願いしたいと思います。以上です。</p>
学校教育課長	<p>学校教育課の江隈でございます。先ほどのご質問でございますけれども、スクールライフサポーターが配置されている学校ではいわゆる相談室という形の教室を設けております。その中に在籍している生徒の半数以上が、教室に戻れるようになったということでございます。以上でございます。</p>
古城（和）委員	<p>ありがとうございました。</p>
古城（一）委員	<p>5ページの39番、のつはる西部の楽校管理運営事業についての質問でございます。今説明をいただいたところによりますと、宿泊利用者16団体346名、日帰り利用者375名ということで、5ヶ月では非常に多いというか、非常に良い滑り出しなのかなと思っておりますが、質問が2つございまして、1つ目はこの数字は予定どおりの利用者の状況なのかということと、2つ目は新しい事業でありますので利用者の方々の利用後の声を聞かれてそれを次に活かそうとするような仕組みがあるかどうか、以上2点です。よろしく願いいたします。</p>

<p>社会教育課長</p>	<p>社会教育課の足立でございます。まず想定どおりの利用なのかという点でございますけれども、予定ではもう少し多い数字を見込んでおりました。実際には週末毎に予定が入っていましたが、9月までの利用がコロナでほとんどキャンセルになってしましまして、利用者については見込みよりは少なくなっております。ただ、週末毎にほぼ予約が入っておりまして10月からはご利用いただいております。1～2月につきましては季節柄少ないご利用となっておりますが、今後も発信に力を入れてますますのご利用をしていただきたいと思いますと思っております。</p> <p>もう1点、利用者の声でございますが、アンケートを途中から取るようにしております、当初の利用者にも改めてお手紙を差し上げてアンケートにお答えいただき、来年度以降の利用に繋げるようにしてまいります。以上でございます。</p>
<p>古城（一）委員</p>	<p>安心しました。ありがとうございました。</p>
<p>上杉委員</p>	<p>4ページの31番スクールサポートスタッフ配置事業ですが、していただく作業としてはプリントの印刷や配布等とあります。これから先紙媒体がなくなっていくことや、新型コロナウイルス感染症対策の消毒作業が縮小されていく中で、ICT教材の準備や片付け等、ICTサポートの支援員さんでなくてもできる作業や戸惑っているお子さんへの寄り添い等、拡充事業として継続していくのであれば、その内容も精査されてはどうかと思います。以上です。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>学校教育課の江隈でございます。貴重なご意見ありがとうございます。私どもといたしましても今後新型コロナウイルス感染症の類型が変わっていく中で学校での過ごし方もずいぶん変わっていくだろうと想像しております。そうした中で今おっしゃられた消毒作業の部分も今後どうなるかは分かりませんが、軽減されるようになればできる作業を精査しながら教職員が時間確保できるように、また、子どもたちにとってもより良い形になるように考えていきたいと思っております。</p>
<p>久渡副市長</p>	<p>ありがとうございました。その他にはよろしいでしょうか。</p> <p>それではこれで議事2を終了いたします。本日は、「文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について」意見交換を行うとともに、「令和4年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業について実績報告を行いました。事務局は、本日いただいた様々なご意見を整理し、今後の取組につなげていくようお願いします。</p> <p>最後に、教育委員の皆様には、今年度4回の総合教育会議にご出席いた</p>

<p>閉会 企画部長</p>	<p>だき、誠にありがとうございました。来年度も大分市の教育の充実に向けて、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>本日の議事は以上でございます。皆様ありがとうございました。それでは、事務局お願いします。</p> <p>ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度第4回大分市総合教育会議を終了いたします。今回は今年度最後の開催となります。来年度の開催日程等につきましては、事務局で調整させていただき、改めてご連絡いたします。皆様、本日は誠にありがとうございました。</p>
--------------------	--